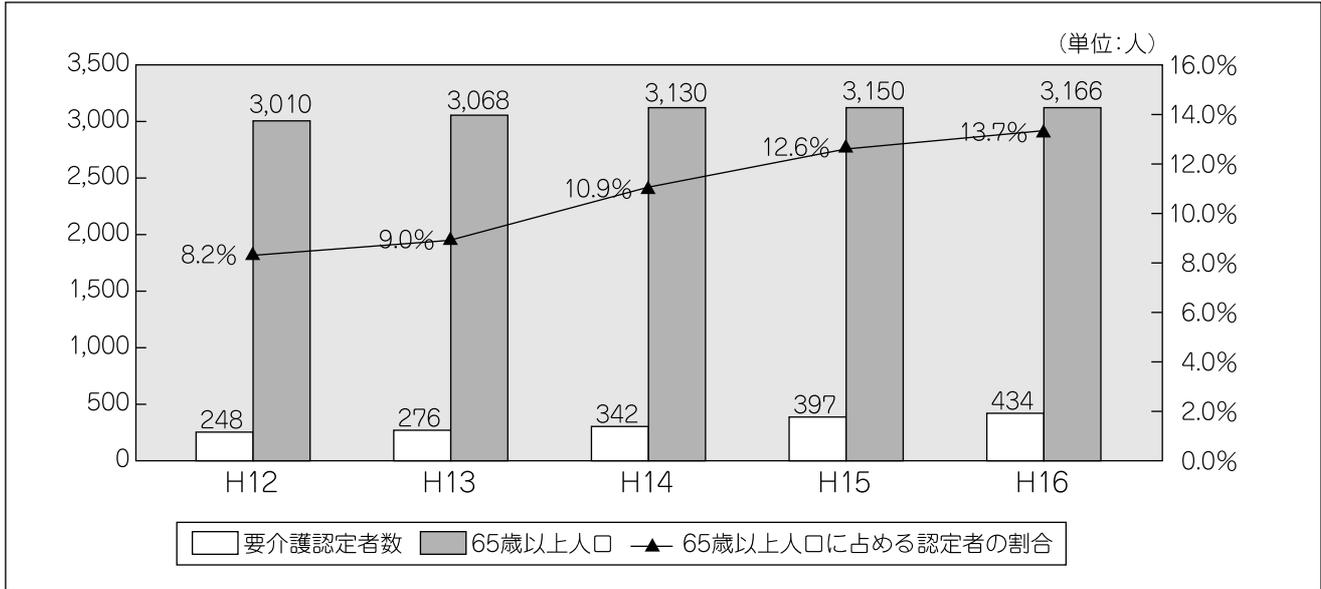


要介護認定者の推移



平成12年4月に介護保険制度が導入されてから5年が経過し、制度の普及やサービスの充実により、認定者数・認定率が増加傾向にあります。

小野町では、要介護1（部分的な介護を要する状態）の認定を受けた方が多いのが特徴の一つで、要介護1の認定を受けた方が、要支援（要介護より軽い状態）へとなれるよう、あるいは要介護2（要介護より重い状態）とならないような取り組みに向け、現在検討を進めています。

小野町の課題

小野町の高齢化率の上昇は、団塊の世代が65歳になりきる平成27年以降も緩やかに増加するものと予測されます。

超高齢社会の到来により、保健・福祉・医療・産業・経済・世代間交流など、様々な分野への影響が予想されます。

また、核家族化の進行の要因として、近年では、単身高齢者世帯が増加しており、平成12年の国勢調査結果では、200世帯にまで増加しています。

目指すべき方向は

このような状況のもと、高齢者をはじめとする全ての人々が真に長寿社会を喜び合える社会づくりが重要です。

そのためには、住み慣れた地域や家庭で、健康で安心して生活ができる環境や、地域社会の担い手の一員として、その能力や経験を活かしながら、充実した人生を営むことができる社会を実現していく必要があります。

敬老の日に

高齢化の進行は、小野町だけではなく国全体の現象です。これまでに経験したことのない社会を乗り越えて行くには、住民、事業者、ボランティア、行政などが共に支え合い、一体となった取り組みが大切です。

敬老の日を契機に、一人ひとりが、豊かな長寿社会の実現について考えてみてはいかががでしょうか。

単身高齢者世帯の推移

